

経営協議会学外委員の意見を活用した法人運営の主な改善事例

第3回（平成28年9月14日）

研究する分野の将来を見据えたうえで、教育研究に取り組むことが重要である。
また、専門が異なる者による客観的な評価をその研究にフィードバックすることで、より進化した研究につながることから、多くの方と意見交換を行うことが重要である。

厳しい財務状況を背景に、大学全体の教員数が減少する中、持続的な教育力や研究力の向上を実現させるためには、若手研究者の育成が求められることから、全学的な戦略として、「優れた若手研究者の採用拡大に向けた今後の人事戦略」を構想し、これを実現すべく取り組んでいるところである。

この取組により採用された者に対しては、専門の異なる複数の研究者によるメンター制、テニュアトラック制、PD(プロフェッショナル・ディベロップメント)制度、研究のユニット化促進等により、組織的な若手育成に励むほか、キャリアパス多様化等により教育研究活動等の活性化を推進している。

第5回（平成29年1月17日）

報道機関と接点を持ち、積極的に広報を行うことは重要である。そのうえで、教育及び科学技術担当の記者と交流を図る必要がある。

平成28年度から本学が取り組む様々な教育研究活動について、多くの方々に知っていただくために、「学長記者懇談会」と称する地域のマスメディアを対象とした情報提供の場を設け、積極的に情報発信を行っている。

経営協議会学外委員からの意見等を踏まえ、学長記者懇談会で懇親を深めた地域のマスメディアに協力いただき、本学の多様な教育研究活動に理解がある記者との交流を図り、衛星プロジェクトや学内コンテスト等新聞やテレビ報道でマスメディアに取り上げられることが多くなった。

海外にある同窓会組織も含めて、卒業生の本学への帰属意識を高めること、本学のファンを作ることが重要である。

現在本学の同窓会組織は全国に48支部、海外ネットワークとして北京とタイに学友会を有している。

これらの同窓会組織の帰属意識は非常に高く、主要な支部会には学長が赴き、本学の現状及び今後の展開等を卒業生へ申し伝え、卒業生との交流を図っている。

今後は同窓会組織と更なる連携を図るとともに、生涯にわたり本学からの情報提供等を行っていくために導入した九工大メールサービスを積極的に活用して、本学のファンとなってもらえるよう卒業生との交わりを深化させていく。

また、平成28年度に設立した基金についても、同窓会組織と連携を図り、卒業生に案内しているところであるが、この基金に会員制度を導入し、付加価値を加えることで、更なるファンの拡大を図っていく。

数値目標を掲げた年頭所感を出したことは評価できる。学長の考えを受け、各部局長がそれぞれのビジョンを持ち、それを公表してはどうか。また、広報活動には、ブランディングが大切で、それには学長のリーダーシップとそれを支える現役職員が一体となって活躍することが重要である。

本学ウェブサイト「学長室より」のサイトを設け、「学長のことば」に式典での告辞や新年の挨拶を掲載し、学外にも広報を行っている。

また、学内には平成28年の本学の取組における振り返りと平成29年の取組として数値目標を掲げた意気込みを学長の年頭所感として、メールやウェブサイトを通じてすべての職員に対し、周知している。

経営協議会学外委員からの意見等を踏まえ、本学の新たなキャッチコピーのもととなるブランドビジョンの作製にも取りかかった。これを学内にも浸透させ、職員の一人一人がブランドビジョンを意識して、教育研究活動等に励む風土の醸成を推進していくことが必要である。